

相愛大学研究シーズ集

シーズ名	鎌倉時代後期・南北朝時代の宮廷における、京極派和歌を中心とした文芸活動とその継承	
所属	人文学部	人文学科
氏名	阿尾あすか	
<p>【概要】</p> <p>鎌倉時代後期・南北朝時代の宮廷における、和歌を中心とした文芸活動の様相を研究することで、皇統間の文化継承がどのように行われたのかを明らかにする。</p> <p>文化史では、室町時代が文化的転換期であったとされる。その現象は、前の時代である鎌倉時代後期から南北朝時代にかけて、すでに萌芽を見せるものであった。一方で、宮廷では王朝時代より受け継がれた文化が続いており、その継承が皇統の正統性を証明するものでもあった。文化の継承は現代にも続く天皇家の大きな文化的役割の一つでもある。本研究では、現代の天皇家のルーツである北朝の皇統、持明院統宮廷で継承された、京極派和歌という新風和歌の活動の研究から、宮廷の文化創造と継承の様相を浮き彫りにする。</p> <p>鎌倉時代後期以降の天皇は実質的な権威を失い、宮廷も衰退していたととらえられがちであるが、詳細を見れば、その存在が果たしてきた役割は大きい。本研究からは、「天皇制」という日本独特の制度が果たしてきた役割を、文化的な側面から明らかにするものである。</p>		
キーワード	日本文学、宮廷文学、和歌、持明院統、京極派和歌、文化継承	